

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

キリスト教主義教育を実践する学校法人における存立理念のもとに、関西学院中学部・高等部をはじめ、全国のキリスト教主義中・高等学校の聖書科教育への一助として、神学部の監修のもと、ワークブック『GOOD NEWS 新約聖書』（福島旭関西学院中学部宗教主事 著）が刊行された。これは「キリスト教スタディーブック・シリーズ」の第1巻として刊行されたものであり、このシリーズが、学校や教会の現場で聖書理解を助け、学びの意欲をかきたてるために役立つことを期待している。また、2007年度神学研究会においては、現代的な内容を帯びた研究発表として、「高見順にみるスピリチュアリティ—その意味とケアの可能性」、「否定神学と救貧の実践」、「心の貧しい者とは誰か？」といったテーマがとりあげられた。さらには、人間の「尊厳」とその「深淵」の双方を有機的な仕方で問題化し、キリスト教の視点から聖書を踏まえ、思想史や文化史を含めて統合的に研究するため、神学部教員を代表とした大学特定プロジェクト研究センター（設置期間：2007年10月～2010年9月）も立ち上がり、全学的な取り組みとして研究が始まっている。

学部・大学院前期課程6年一貫教育については、日本基督教団所属の伝道者育成に係る教育方針であり、主に日本基督教団または協約を結ぶ教派所属のキリスト教神学・伝道者コース生（ただし、2007年度以前はコース生導入以前の卒業生）を対象としている。

年度	卒業者のうち 教団所属者数	左のうち大学院 前期課程入学者数	割合
2007年度	11名	4名	36.4%

※ 教団所属者数には、教団が宣教協約を結んでいる教派に所属する人数も含む。
大学院前期課程入学者数には、学部卒業後1年以上を経た後に進学した者を含まない。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「キリスト教神学・伝道者コース」および「キリスト教思想・文化コース」からなるコース制の総括と課題については、現在第2次将来構想委員会において検討中である。

また、退学者数の学生に対する割合について、一方では学生全体の母数が小さいこともあり、単に数字の割合では評価が難しいと考える。他方、退学した学生については、家計や新しい進路希望に対応する丁寧な学生指導の結果でもあり、その意味においては必ずしも否定的に捉えていない。

学内第三者評価

キリスト教の伝道者を育成するという目標を堅持し、その教育研究のために、神学研究会を中心とする活動がなされていることは認められる。また、特定プロジェクト研究センターも着実な活動を続けている。一方で、キリスト教の現代化に即応するための目標、例えば「キリスト教思想・文化コース」の設置が、いまだ明確に見えていない感もある。今後2つの目的を差別化することも期待される。

進路希望調査、就職率、思想・文化コースの進路先を含めた進路把握について記述することが望まれる。また、退学者数（6名）の学生に対する割合が全学に比較して高いことについて何らかの記述が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
神学部の目標に基づき、全国のキリスト教主義中・高等学校のための「GOOD NEWS 新約聖書」の監修、神学研究会におけるテーマの選定など、意欲的に取り組まれている。
学部・大学院前期課程6年一貫教育については、順調に推移している。